

安中ヘルメットプロジェクト

12月15日（金）、安中ヘルメットプロジェクトの方が13名来校し、体育館で3年生にヘルメットを寄贈してくださいました。

安中ヘルメットプロジェクトとは、安中のロゴの入ったTシャツを販売し、その収益をヘルメットの購入に充て、安中市の小・中学校にヘルメットを寄贈するというプロジェクトです。安中の子どもたちにヘルメットを届けることで、防災意識を高めていくことをねらいとしています。昨年度まで市内の小学校全てにヘルメットの寄贈が終わり、今年度から中学校への活動が始まっています。ヘルメットを実際に使ような災害はない方がいいですが、もしもの時に活用させていただけたらと思います。寄贈式の最後には、サプライズとしてミニコンサートのプレゼントもありました。



命の大切さを学ぶ教室」が新聞で

紹介されました。

12月11日に行われた「命の大切さを学ぶ教室」の様子が、12月12日の読売新聞、15日の東京新聞で紹介されました。

「命の大切さを学ぶ教室」が新聞で紹介されました。12月11日に行われた「命の大切さを学ぶ教室」の様子が、12月12日の読売新聞、15日の東京新聞で紹介されました。

被害者家族の話を聞く生徒ら—安中市で

松井田中 犯罪被害者家族の講演会

「命の大切さを学ぶ教室」と題し、事件の被害者家族を迎えた講演会が安中市の松井田中学校であり、全校生徒約200人らがその悲しみや心の痛みに耳を傾けた。

安中署などの協力で招いたのは、2014年に知人からの暴力で一人息子を亡くした40代の夫妻。「病院に運ばれた時から希望はなかったが、手を握り「息を吸って」と何十回も叫んだが、少しずつ体温が下がっていった」と今も鮮明な記憶をたどり、やりきれない気持ちを吐露した。

さらに不確かな情報が拡散され、二次被害に苦しんだという。自身らの経験に基づき「死ね」とか簡単に使わないでほしい。自分が言われて嫌なことは言わないで」と訴えた。

インフルエンザの流行で生徒らは各教室で講演を聞いた。2年生の「聞いているだけで胸が苦しい。命をより深く考え、いじめ撲滅に向け活動したい」などと語った。（樋口聡）

命の大切さを訴え

安中の中学校

県内で2014年に知人の男から暴行を受け亡くなった男性（当時21歳）の両親が11日、安中市立松井田中学校で講演し、命の大切さや犯罪被害者への支援の必要性について訴えた。

両親は同校の会議室で話し、オンラインで各教室に中継。全校生徒約200人が真剣な表情で耳を傾けた。母親（48）は「命と一緒に親子の思い出も奪われた」と悲憤な心境を語り、「もし皆さんが被害者と話す機会があったら、『何か私にできることはないか？』と寄り添ってほしい」と語りかけた。

同校2年の「君（13）は『今ある命は当たり前ではない』と思った。命の大切さを考えるきっかけになった」と話していた。

思いやりの連鎖が広がりました～人権学習強調月間

10月30日～11月30日に設定されていた人権学習強調月間が終わりました。その間、人権作文や人権標語の作成などに取り組んできました。（代表作品は後で紹介します。）また、人権講話の中では「優しさの実践こそが人権尊重の精神である」という話をし、強調月間中に行った「人に送った優しさ」と「人から送られた優しさ」を知らせて欲しいとお願いしました。生徒達からはタブレットに多くの実践が寄せられました。その中のほんの一部を紹介します。

人権学習強調月間は終わってしまいましたが、今後も継続し、「ペイ・フォワード」があふれる学校になればいいなと思っています。

人に送った優しさ（思いやり）

- ・荷物で手が塞がっている友達のためにドアを開けてあげて、荷物を少し持ってあげた。
- ・思いやりなのかは、わかりませんが、朝、友達に「お誕生日おめでとう」と言いました。
- ・ハンドボールでいつも攻めている人が決まっていたので、守りの人と交代してみんなが参加できるようにした。
- ・移動教室のとき、友達の持っている荷物が多かったので荷物を持ったことです。
- ・休みの人の仕事の分（黒板消し）を友だちと自主的にすることができた。
- ・倒れている自転車を学年問わず直してあげた。
- ・悩んでいる人の話を聞いてあげた。
- ・相手の子が少し落ち込んでいたときに、一緒に遊んで勇気づけてあげた。友達を大切にするために正しい声かけができた。
- ・近くの席の子が授業でやっている問題が解けていなかったので解き方を教えた。



人から送られた優しさ（思いやり）

- ・課題でわからないところを教えてもらった。何するか分からないとき、声をかけてくれた。
- ・給食が重くて運ぶのが大変だった時、友達が気づいて手伝ってくれた。
- ・体育の授業で（ハンドボール）、普段から守り側にいたが友達が攻める方に入れてくれて、「〇〇がいるとすごく助かる！今まで守りしかやらせてあげられなくて、ごめんね」と言ってくれた。
- ・フリスビードッジボールで男子が優しく投げてくれました。
- ・配り係ではない人が、配りものが多かったときに配るのを手伝ってくれたことです。
- ・自分が辛くて気持ちが沈んでいるときに「大丈夫？」って声をかけてくれたことです。
- ・ちょっと体調悪いときに「どうしたの？」と声をかけてくれた。
- ・疲れていた時に心配してくれるような声かけをしてもらった。
- ・「お誕生日おめでとう！」と言われた。
- ・発言したときに考えを褒めてもらった。

